

アマモの力



「海のゆりかご」と呼ばれる、生態系をはぐくむ海草アマモ。漁業者と地域が手を携え、「再生に取り組むのが備前市の日生である。ことしで31年となり、消滅寸前から最盛期の半分近くに盛り返した。岡山市のNPO法人里海づくり研究会議の理事で事務局長、田中丈裕さん(62)は県庁時代から知恵袋として携わり、日生で先月開いた「全国アマモサミット」の実行委員長を務めた。貴重な実践を、未来へどうつなぐのかを聞いた。

(論説副主幹・岩崎誠、写真も)

—これまでの道のりを振り返つて思うことは。

2011年に急逝した一人の漁師を抜きに語れません。伝統の「つぼ網」漁の傍ら再生活動の先頭に立った本田和士さんです。私が出会ったのは岡山県の水産課にいた35年前。長年の経験から魚の生活史や移動経路を熟知していてアマモ場が減つたまでは魚の隠れ場も餌場もない、稚魚を放流するだけでは駄目だと語ってくれました。それが出発点です。

—3日間に及んだサミットは延べ2千人が集つたとか。各地で開いてきて9回目でしょ。私が出会ったのは岡山県の水産課にいた35年前。長年の経験から魚の生活史や移動経路を熟知していてアマモ場が減つたまでは魚の隠れ場も餌場もない、稚魚を放流するだけでは駄目だと語つてくれました。それが出発点です。

—最初は、なかなかうまくいかなかつたそうですね。

—いつたんアマモを失つた海底は泥質で再び定着するのが難しいんです。しかし力キ殻を敷設すれば効果があることを発見したのが大きかったです。せつかく育つた段階で台風で流れられる不運な年もありましたが、20年目を迎えた頃から順調に回復して昨年には2500円にまで達しました。

—最初は、なかなかうまくいかなかつたそうですね。

—いつたんアマモを失つた海底は泥質で再び定着するのが難しいんです。しかし力キ殻を敷設すれば効果があることを発見したのが大きかったです。せつかく育つた段階で台風で流れられる不運な年もありましたが、20年目を迎えた頃から順調に回復して昨年には2500円にまで達しました。

—成功例である日生以外への広がりはどうでしよう。

—海はつながっています。ここだけ良ければいいわけではありません。瀬戸内海、そして全国の沿岸域にノウハウを広げて海の環境を改善したい。岡山県内では笠岡などで既にアマモ再生が本格化しています。一方で日生では漁師たちが先頭に立つていますが、地域によってはあまり漁業者自身が関わっていないのが壁であります。

—漁業者の高齢化も進んでいますからね。マンパワーを呼び込もう。

—漁業者に高齢化も進んでいますからね。マンパワーを呼び込もう。

日生の実践を広げたい

田中丈裕・里海づくり研究会議事務局長

功でした。一番古くから取り組

む日生と、全国で関わる人たちが熱意を共有できました。

—藻場減少への危機感が、ま

だなかつた頃でしょう。

—魚も戻つたんですね。

半世紀近く姿を消していた、モエビやアイゴが帰つてきました。漁協の主力のカキ養殖でも昇も抑えるため豊かな生物多様性が維持されていました。です

込む工夫が要ります。

アマモ場は開発の代償行為として利用されやすい面がありま

す。単につくるだけではなく積

みた。地域を越え、世代を超

てもつと人の輪を広げていきた

い。例えば里海・里山の連携のためには私たち海から遠く離れた県北の真庭市とも交流を深め

ています。

今は漁協を挙げた取

り組みとなり、総合学習に取り

入れた日生中の生徒や一般の市

民も参加しています。さらに昔

の面積に戻すのが目標です。

よどとしています。

—アマモ再生は決して漁業だけのためではない、と。

50年代までアマモは盛んに肥料に使われていました。それを復活させる動きも地元では始まっています。日生中出身の高校生が提案する「アマモVege (ベジ)」はアマモを干して力

殻を混ぜた肥料で野菜を作る試みで、婦人会も盛り上がり始めています。サミットでも旬の魚とともに「里海里山弁当」として売り出して大好評でした。

—こうした豊かな発想を大

いことに貢献するのも、私た

ちの役目と考えています。



たなか・たけひろ 大阪市生まれ。高知大農学部卒、同大学院農学研究科(栽培漁業専攻)修士課程修了。79年に岡山県技師となり、アマモ再生やノリの色落ち対策など水産行政に携わる。11年に水産課長で県を退職し、瀬戸内海の研究者らを集めたNPO法人里海づくり研究会議を立ち上げる。12年から現職。岡山市在住。

たなか・たけひろ 大阪市生まれ。高知大農学部卒、同大学院農学研究科(栽培漁業専攻)修士課程修了。79年に岡山県技師となり、アマモ再生やノリの色落ち対策など水産行政に携わる。11年に水産課長で県を退職し、瀬戸内海の研究者らを集めたNPO法人里海づくり研究会議を立ち上げる。12年から現職。岡山市在住。

たなか・たけひろ 大阪市生まれ。高知大農学部卒、同大学院農学研究科(栽培漁業専攻)修士課程修了。79年に岡山県技師となり、アマモ再生やノリの色落ち対策など水産行政に携わる。11年に水産課長で県を退職し、瀬戸内海の研究者らを集めたNPO法人里海づくり研究会議を立ち上げる。12年から現職。岡山市在住。